



脳卒中センター  
脳神経内科  
部長

山田 真人

## 特色

脳神経内科とは、脳・脊髄・末梢神経・筋の器質的疾患を診療する科であり、頭痛、めまい、しびれ、筋力低下、歩行障害、言語障害、物忘れなどを訴える患者さんが対象です。京都西部地域で唯一、神経内科専門医が複数名常勤している病院であり、神経救急疾患から神経難病まで、あらゆる神経疾患に対応しています。脳神経疾患は、一昔前まで「治らない病気」の代表格とされるものが少なくありませんでしたが、近年の医学の進歩により、病態解明が進み、「治る」時代になりつつあります。そのために私たちが最も大切にしていることは「治る病気を見逃さない」ことです。一見すると「治らない神経変性疾患」と思われる患者さんが、実は「治る神経免疫疾患」との診断が付き、免疫治療により機能回復を得られたという経験をいたします。このような患者さんを救うことは、決してMRIを撮像してできたわけではなく、丁寧な問診と診察、そして「ちょっとした違和感」を文献検索で「根拠あるもの」にしていくことでできました。内科診断学の基本は昔も今も変わらないものと痛感いたします。私たちがこのような経験を重ねることができているのは、地域の先生方から「脳神経内科」にご紹介いただいたおかげと心から感謝しております。

## 診療内容

対象疾患	具体的傷病名
脳血管障害	心原性脳塞栓症、アテローム血栓性梗塞、ラクナ梗塞、脳出血、脳静脈血栓症
神経系感染症	髄膜炎、脳炎、脊髄炎、脳膿瘍
非感染性炎症性疾患	血管炎、リウマチ性多発筋痛症、サルコイドーシス
脱髄性疾患	多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎
神経変性疾患	パーキンソン病、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、大脳基底核変性症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症
脊髄・脊椎疾患	脊髄炎、脊髄血管障害、脊髄硬膜外膿瘍、頸椎症、腰椎症、椎体炎
髄液動態異常	正常圧水頭症、低髄液圧症候群
末梢神経・筋疾患	ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、重症筋無力症、封入体筋炎
自律神経系・機能性疾患	起立性低血圧、てんかん、片頭痛、群発頭痛、良性発作性頭位めまい症、ムズムズ脚症候群

## 実績

入院実績 (人)		上位患者数			
年間延入院患者数	7,630	脳梗塞	57	尿路感染症	9
新患者数	217	アテローム血栓性脳梗塞性期	24	一過性脳虚血発作	8
外来実績 (人)		誤嚥性肺炎	20	ギラン・バレー症候群	7
年間延外来患者数	5,463	パーキンソン病	15	パーキンソン症候群	7
新患者数	143	てんかん	13	筋萎縮性側索硬化症	7
1日平均患者数	22.5				



## スタッフ

医師名	役職	専門分野	専門医認定 / 資格など
山田 真人	部長	臨床神経学、認知症	日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医
戸田 真太郎	副部長	臨床神経学、脳血管障害	日本内科学会 認定内科医、日本内科学会 総合内科専門医、日本神経学会 神経内科専門医、日本脳卒中学会 脳卒中専門医
立岡 悠	医長	臨床神経学、頭痛、てんかん	日本内科学会認定医、日本神経学会神経内科専門医、日本頭痛学会専門医
山本 康正	顧問	臨床神経学、脳血管障害	日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医

## 地域医療機関の先生方へ

脳神経内科は血管障害、神経変性疾患、神経免疫疾患など多岐にわたり、また各々において近年飛躍的に進歩しています。私たちは脳神経内科領域の中疾患では偏りなく対応できるよう努力しております。